

11月15～26日、日本で初めての「デフリンピック」が

東京で開催され、21競技の中にはゴルフ競技も採択されている。

そこに日本代表として出場する袖山哲朗と

世界デフゴルフ連盟事務局メンバーでもある袖山由美。

ようこそ、音のない世界へ——情熱と集中力を持って取り組むデフゴルフの世界を紹介する。

## 東京2025 デフリンピック開催!

音のない  
世界で  
キラキラする



# 音のない 世界で キラキラする

10月某日。調布市の小学校で講演していたのは袖山哲朗・由美夫婦。2人とも、生まれつき聴覚に障害がある。

プレゼンテーションが映るスクリーンを背にインカムマイクで言葉を発しながら手話を交じえて伝える内容は非常に練られていて、手話を教えた後、ゴルフのルールを教えたりしながら、約100人の子どもたちを飽きさせない。

最初に伝えた、星が「キラキラ」のように両手を振る(両手を上げ、ひらひらさせる)手話は、

拍手と同様に使えるもので、人の応援をするときに使うものだ。

「15歳も離れていますけれど、僕たちはラブラブです」という説明

に、子どもたちは笑顔で手を「キラキラ」と動かしながら応える。後半には実際にバター対決のゲームをする。ゴルフなどしたことの生徒が囲めば、ゴルフの試合を見

とても仲が良い2人。しかし、よくケンカもするという。「私はアプローチとバターが得意。ドライバーたって当たれば200ヤードいくけど、彼はダメなときしか見てないんです(笑)」(由美)

る発達体験にもなる。試合などで使われる「お静かに!」のプラカードを手作りし、それを見せて静寂を説くのもアイデアだ。

このバッター対決は大いに盛り上がり、まるで試合の最終ホールにいるような一体感となっていた。

「僕たちは、強化指定選手として助成金をもらって活動しています。ゴルフを始めたばかりの人や一般の方のためのイベントやコンペも行います。自分のプレーの結果が出来ることはもちろん、こういった活動も喜びですし、これにより僕自身を応援してくれる人が増えることも実感しています」(哲朗)

「聴覚障害者の中にはどうやってゴルフを始めたらいかわからぬ人も多い。まったくしゃべれない人もいて、不安ですし、コースで入場を断られることも未だないことはないんです。また、技術だけでなくルールもきちんと教えて、マナーが悪いと言われないようにならない。聞こえる人の中に入つても一緒にできるようにしたいんです。私たちがゴルフへの入り口を作りたい」(由美)

袖山夫妻は、NPO法人日本デジタルゴルフ協会の事務局長・デフリビック日本代表、事務局海外担当

当としての顔も持つのだ。

## 動画を見て分析し何回も練習する

袖山哲朗は88年生まれ、静岡県出身。2歳のとき、動きや反応が

## 聞こえなくても、ゴルフはできる。

協会のHPにあるキャッチコピー。小学校での講演会＆バターテクニカル会でも、随所に工夫を凝らしていた



東山哲朗は88年生まれ、静岡県出身。2歳のとき、動きや反応が

遅いことから病院で調べて障害がわかった。感音性難聴による聴力障害である。ゴルフは小3のとき、ゴルフ好きの父の影響で始めた。関東ジュニア選手権で3位、IJG A全国大会で5位に。11歳のとき、日本デフゴルフ連盟の理事長から誘われ、デフゴルフの世界でも活動を始め、高1のとき日本一となる。18歳のとき、カナダでの世界デフゴルフ選手権の日本代表に選ばれ4位に。日本体育大学（ゴルフ部）を卒業後、さまざまな国際大会で活躍、24年の世界デフゴルフ選手権では団体戦で初めて3位に。また、茨城GCでクラブチャンピオンとなり「有名なトップアマ、澤田信弘さんに勝てたんですよ」。昨年は日本社会人ゴルフ選手権全国大会で35位に。輝かしい経歴で気づくことは、デフだけではなく、アマチュアの大会でも活動し結果を残していることだ。現在はスポーツメイカー、アンダーアーマーの日本総代理店である株式会社ドームのカスタマーチームで働きながら活動している。

哲朗は、試合では補聴器を外してプレーする。電車の音がかすかに聞こえるくらいだという。「補聴器を外し、音のない世界でプレーする。そうすると集中できる面はあるんです。僕たちはレッスン時、身ぶりで教えてもらうことが多い。情報量が健常者と比べて少ない。動画を見て分析し、何回も繰り返して練習し、技術を習得します。また、プレーが遅いと思われているけど、それは関係ない。マナーや技術などをしっかりと指導、理解していただくことが大事です」

## ゴルフでつながって、つながっていく

袖山由美は、73年生まれ、東京都出身。ろう学校を卒業後、大手企業に就職したものの単身渡米、アメリカの大大学で学び直し修士号を取得。帰国後も外資系の企業に勤めたりしながら活動を広げ、その存在感が映画『みみをします』(2005) のモデルにもなる。哲朗の体を支えるためアスリート・フードマイスターの資格を取得、それ以外にも、聴導犬の普及や英語の手話教室で世界に羽ばたく子どもを育てる活動などもやってきた。日本語、日本手話、アメリカ英語、アメリカ手話、韓国語、韓国手話、香港手話、台湾手話、スペイン語、国際手話の「10の言語」を操る才

女である。

とにかくパワフルな人だ。そのポジティブさに自然と周りに人が集まつてくる。ゴルフを始めたきっかけは12年にアジアで初めて行われた世界デフゴルフ選手権（津CC）で、コミュニケーション部門のプロデューサーとなつたこと。ゴルフの用語がわからず、哲朗さんにゴルフを教わるようになつた。これが運命の人との出会いいともなつたのだ。2人は結婚し、由美は哲朗のキャディを務めたり、世界大会の事務局兼通訳として世界中を回るようになる。「こんなにゴルフに深く関わるとは思つていませんでした。でもゴルフは特別です。運営にも関わつて経験して、今まで見たことのない世界に連れていくくれた。ゴルフはつながつて、つながつて、つながっていく。ゴルフというものに人もいろいろな考え方も集まつてきます。最初に世界デフゴルフ連盟理事長から理事にならないかという打診が来たときは、理事全員が白人男性でした。でも、悩むより、やつてみたまんことをう気持ちが勝つてしまつんです。D

Pワールドツアーやドバイのツアーリなどの健常者の方とのつながりも増えました」（由美）

由美は、2022年の総会で、世界デフゴルフ連盟メンバーから満場一致で選任され事務局に入った。

また、R&Aの女性リーダー育成のための国際的なゴルフ業界向けプログラム、R&A女性リーダー



哲郎のドライバーの飛距離は290Y。低い球が得意だという。「スコットランドの世界大会で経験して、自信がつきました。日本人はアッパー・ブローが多いから。ティーは低くして、インパクトで止める感じで打ちます」

## 世界へ——英樹に續け！

4年のフランス・パリ大会から始まつた。そして今年、アジアでは台北に次いで、東京での開催がへ



08年の世界大会で個人戦3位タイ。「世界に行けば、多くのことを学べます」  
09年のJGAアカデミックゴルファワードで優秀賞を受賞。同じ年に松山英樹が最優秀賞を受賞している

きた実績があつたため、同時進行でデフリンピックにもゴルフ導入が決まりました。オリンピックンピック2017にゴルフが導入されています」（由美）

東京2025デフリンピック「ゴルフ競技」は、11月18～20日に個人戦、21日に団体戦を若洲ゴルフリンクスで行う。個人戦はストローク競技、男女混合のチーム戦は男女1人ずつでペアを組み（1カ国につき2ペアまで）フォアサム形式で行われる。

国際試合においては、聴力55dB（※）以上かつ補聴器を外してプレーする。特例によりOBかどうかの判定を旗で知らせる監視員を設置するケースもある。クラス分けも年齢分けもなく、男女は別部門となる。ルールは、JGAのゴルフ規則に完全準拠している。

日本選手は袖山を含めた男性3名、女性2名。会場の若洲ゴルフリンクスは、無料で観戦できる。

「見えることができるのは1番ティーアイニングエリアと9番グリーン、10番ティーアイニングエリアと18番グリーンだけですけれど、来てくださいました皆さんと気持ちがつながつたらしいなと思います」（由美）

## デフリンピックは 無料で観戦できる！

さて、デフリンピックは192

決まつたのだ。

「デフリンピックはIOCと連携しており、オリンピックにゴルフを導入することが決まつたとき、既に世界デフゴルフ選手権をやつて

子どもたちに手話を教える  
袖山夫妻。我々も少しでも  
覚えて観戦に向かおう。観  
戦は無料だ

## 「キラキラ」を送ろう!



哲朗の目標は、個人戦、団体戦ともにメダルを取ることだ。

「このコースは関東ジュニアで当時のベストを更新したり、日本の

PGA主催の試合、フィランスロ

ピーで2年前に67を出したコース。

世界のプロゴルファーも4人出場

しますから（海外からの有力選手

—アメリカのケビン・ホールは

PGAツアーで23年にAPG

Aツアード優勝、インドのディク

シャ・ダガールは17年のデフリン

ピック女子個人で銀メダル獲得、21

年のデフリンピック女子個人では

金メダルを獲得している）、彼らを

倒してメダルを獲得したい。日本

が強いとアピールしたいですし、デ

フのいろいろなコミュニケーションの取り方など、ぜひ雰囲気を見

てください！」（哲朗）

ここで簡単な手話をご紹介しよう。パーは片腕を大きく広げて「セーフ」の形を、バーディは小鳥がパタパタ羽ばたくような形で表現する（上の写真参照）。

選手たちには音がなくてもほとばしる情熱がある。そして、さまざまな技術がある。ぜひ選手たちを応援して我々の「キラキラ」を送ろうではないか。

袖山夫妻には、その先にも大き

な夢がある。

由美は、「自分の夢はいっぱいありますから」と笑いながら、「大きな夢でいつになるかわからないけど、彼（哲朗）がマスターズの

ローダマを取った姿を見たい。あと

も見てみたいです。ゴルフの考え方など勉強になると思うんです」。

哲朗は、選手の自分とデフゴルフの未来、両方を見据えている。

「世界大会で団体戦と個人戦で1位を取ること。また、メダルを取るチームを作りたい。だから若者

を発掘しているんです。自分自身はもっと努力しないといけない。結果が出ないとゴルフはつまらない

ですから。でも、妻と時々エンジ

ヨイゴルフを楽しみみたいですね。また、今の時代は共生社会と言われています。誰一人取り残さない

こと。ゴルフ界は今、バラバラです。JGA、PGAなど僕たち

がもっと協力して日本のゴルフ界を盛り上げていきたい。健常者も

障害者も——片麻痺の方も切断された方も知的障害のある方も一つ

にまとまつたらしいな

大きな世界大会に詰まつた数々の小さな夢が「キラキラ」と輝く。

（文中敬称略）

## 強い日本チーム、デフゴルフの奥深さを見てほしい

聴覚障害者には、風の音が聞こえない、スwingやショットの音が聞こえない、木に当たったり池に入った音も聞こえないなど、バランス感覚の取りにくさ、情報量の少なさなどがある。一方、音に頼らない身体感覚に頼った再現性の高いスwingができる！

